

研究集録

令和6年度 No.59



宮崎県学校教育研究会
音 楽 部 会

《 目 次 》

- 令和 6 年度地区会長・理事等名簿
- 令和 6 年度宮崎県音楽教育研究会事業報告
- 各地区研究報告
 - ・宮崎市
 - ・東諸県
 - ・南那珂
 - ・北諸県
 - ・西諸県
 - ・西都
 - ・児湯
 - ・日向・東臼杵
 - ・延岡
 - ・西臼杵
- 指導案形式
 - ・小学校
 - ・中学校
- 令和 6 年度宮崎県音楽教育研究会本部役員名簿
- 宮崎県音楽教育研究会会則
- 第 44 回宮崎県音楽教育研究大会日向・東臼杵地区大会報告

令和6年度 地区会長・理事長

役 職 名		氏 名	勤 務 校	電 話 番 号	大会
宮 崎 市	会長	鎌田 剛史	宮崎市立生目中学校	0985-48-1101	R11 2029 九州大会
	副会長	田原 理恵	宮崎市立宮崎西小学校	0985-47-0403	
	理事長	重永 智子	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000	
東 諸 県	会長	松浦 寿人	綾町立綾小学校	0985-77-0009	
	理事長	福島 香織	国富町立八代小学校	0985-75-2555	
南 那 珂	会長	大田原 千佳	串間市立大束小学校	0987-74-1058	R13 2031
	理事長	川越 直美	日南市立油津中学校	0987-23-1149	
都 北	会長	碓山 浩一郎	都城市立石山小学校	0986-58-2305	R15 2033
	理事長	日高 紫保	都城市立姫城中学校	0986-22-4281	
西 諸 県	会長	多良 眞知子	えびの市立飯野小学校	0984-33-0008	R17 2035
	理事長	櫻井 和子	小林市立細野中学校	0984-23-3611	
西 都	会長	押川 由美恵	西都市穂北小学校	0983-43-3215	R1 2019
	理事長	後藤 三紗子	西都市立三納小中学校	0983-45-1234	
東 児 湯	会長	恒松 秀明	川南町立通山小学校	0983-27-0847	
	理事長	中津 卓郎	高鍋町立高鍋東中学校	0983-23-0046	
日 向	会長	濱砂 達洋	日向市立坪谷小学校	0982-69-7568	R6 2024
	理事長	工藤まゆみ	日向市立日向中学校	0982-52-4794	
延 岡	会長	石井 豊久	延岡市立延岡中学校	0982-33-2541	R8 2026
	理事長	松羽 裕之	延岡市立北川小学校	0982-46-2012	
西 臼 杵	会長	大島 昭二	五ヶ瀬町立上組小学校	0982-82-0212	
	理事長	吉永 君代	高千穂町立高千穂小学校	098-72-3251	

事業実績報告書

事業内容の概要			
月日	場 所	実 施 内 容	参加者
R6.4.30	生目中学校	<令和6年度 第1回役員会>	役員
R6.6.20	オンライン開催	<役員総会> ○令和5年度 事業報告・反省・決算承認 ○令和6年度 役員選出・事業計画・予算承認	各地区会長、 理事長、 県音研役員
R6.8.19	佐土原総合文化センター	研修講義『学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方』 講師 志民 一成 氏 (文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官)	日向・東臼杵 地区大会役 員、県下中 学校音楽担 当者
R6. 10.10, 11	北海道 旭川市	<全日本音楽教育研究会全国大会旭川上川大会> 公開授業・研究協議、開会行事、総会、記念講演、 ワークショップ、閉会行事	全国 音楽担当者等
R6. 10.31, 11.1	沖縄県 浦添市	<第65回九州音楽教育研究大会沖縄大会> 公開授業、授業参観、分科会、ワークショップ、開会行事、総 会、ウェルカム演奏、記念講演、閉会行事	九州各県 小中学校 音楽担当者等
R6.11.29	塩見小学校 富島中学校 日向市文化交 流センター	<第44回宮崎県音楽教育研究大会日向・東臼杵地区大会> 公開授業、部会別研究協議、全体会、ワークショップ <小学校対象> 表現(歌唱)『子どもたちに伝えたい・残したい日本の 歌～共通教材の指導について～』 講師 三宅悠太氏(作曲家) <中学校対象> 表現(創作)『誰にでもできる音楽づくり・創作』 講師 坪能由紀子氏 (東京大学芸術創造連携研究機構客員フェロー)	県下 小中学校音 楽担 当者
R7.2.28	新富町文化会 館	<令和6年度第2回宮崎県音楽教育研究会研修会ならび に事業検討会> ○令和6年度県版ノートの改良点について ○～鑑賞と表現の連携～雅楽「越天楽」を深めるための 創作の授業	県下 中学校 音楽担当者
R7.3.17	生目中学校	<令和6年度 第2回役員会>	役員
<令和6年度第44回宮崎県音楽教育研究大会日向・東臼杵地区大会関連>			
R6.6.17	富島中学校	指導案検討会(中学校:鑑賞)	日向・東臼杵 地区大会役 員、県音研 役員
R6.6.26	平岩小中学校	指導案検討会(中学校:鑑賞)	
R6.6.28	日知屋東小学校	授業研究会(小学校:音楽づくり)	
R6.8.6	佐土原総合文 化センター	指導案検討会(小学校・中学校) 第1回実行委員会	
R6.9.11	東郷学園	授業研究会(中学校:鑑賞)	
R6.9.18	日向中学校	授業研究会(中学校:鑑賞)、第2回実行委員会	
R6.9.27	美々津小学校	授業研究会(小学校:音楽づくり)	

R6.10.15	財光寺中学校	授業研究会（中学校：鑑賞）	
R6.10.22	日向中学校	第3回実行委員会	
R6.10.23	椎葉中学校	授業研究会（中学校：鑑賞）	
R6.10.25	門川中学校	授業研究会（中学校：鑑賞）	
R6.11.12	富島中学校	授業研究会（中学校：鑑賞）	
＜研究成果・刊行物＞			
○研究集録No. 58の発行（各地区の取組、指導案形式、県大会の記録等を掲載）			
○宮崎県版音楽ノート、年間指導計画・指導略案集（中学校）			
○合唱曲集「コーラスフェスティバル」宮崎県版（中学校）			
○宮崎県音楽教育研究会HP（ http://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc031/htdocs/ ）			

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	宮崎市	地区
会 長	宮崎市 立	生目 中学校 鎌田 剛史
理事長	宮崎市 立	生目台中学校 重永 智子
文 責	宮崎市 立	生目台中学校 重永 智子

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
5 月 9 日 (木)	市音楽主任会 【内容：役員選出・事業計画】	宮崎市 総合体育館	6 6 名
6 月 25 日 (火)	主任会（小学校） 【内容：音楽大会概要・器楽講習会】	宮崎港小学校	4 0 名
7 月 9 日 (火)	授業研究会（中学校） 教材：夏の思い出 授業者：安藤亜紀子教諭	宮崎東中学校	2 3 名
7 月 26 日 (金)	主任会（中学校） 【内容：和楽器メンテナンス作業】	宮崎市教育情 報センター	2 1 名
11 月 8 日 (金)	市音楽大会（中学校） 【内容：合唱】	宮崎市民文化 ホール	参加校 2 9 校
12 月 5・6 日 (木・金)	市音楽大会（小学校） 【内容：合唱・合奏】	宮崎市民文化 ホール	参加校 3 0 校
2 月 10 日 (月)	主任会（中学校） 【内容：事業反省・会計報告】	生目台中学校	2 3 名
3 月 4 日 (火)	主任会（小学校） 【内容：事業反省・会計報告】	宮崎西小学校	4 7 名 (予定)

3 成果と課題

【成果】

- 音楽大会では、小学校・中学校ともに4年ぶりに保護者を入れての開催となった。事前に保護者への注意事項を配布し、当日は支障なく大会を運営することができた。
- 中学校の研究授業では、歌詞に寄り添った表現の工夫を班ごとに試行錯誤しながら意欲的に活動しており、1年からの積み重ねが随所に伺える授業だった。授業後の研究会では各学校の取組やICTの効果的な活用など、活発な意見が出された。
- 小学校の器楽講習会は、アコーディオンと打楽器の奏法や指導法について実際に楽器を演奏しながら、講習を行った。

【課題】

- 次年度の音楽大会は、市民文化ホールが改修工事のため、別会場で開催（中学校）。運営について念入りに打ち合わせを行う必要がある。
- 小学校の音楽大会は次年度からの開催をしないことが決定した。授業研究会を5年ぶりに復活して開催予定である。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	東諸県地区
会 長	綾町立 綾小学校 松浦 寿人
理事長	国富町立 八代小学校 福島 香織
文 責	国富町立 八代小学校 福島 香織

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
5/17 (金)	○令和5年度事業報告・会計報告 ○令和6年度役員選出 ○令和6年度事業計画・予算案 ○令和6年度検討事項 ・音楽大会について	綾小学校	9名
9/13 (金)	○令和6年度音楽大会について ・時間配分、プログラム、移動等についての検討	綾小学校	10名
11/6 (水)	○令和6年度音楽大会準備・最終確認 ・会場設営 ・最終確認	綾町公民館 文化ホール	10名
11/7 (木)	○令和6年度小・中学校音楽大会 ・開会行事 9時45分 ・各学校発表(歌唱) ・閉会行事 11時15分終了	綾町公民館 文化ホール	(500人) 児童生徒 教職員含 む
2/7 (金)	○本年度反省 ○会計報告 ○令和7年度小・中学校音楽大会について ○音楽主任役員選考について		

3 成果と課題

- 研究主題に沿った実践については各学校で行い、その1つとして、本年度も小・中合同の音楽大会を行った。
- 本年度の音楽大会も演奏曲目を歌唱のみとしたが、児童生徒の日頃の学習の成果を発表する場として、活用できた。
- 参加した児童生徒にとっては、自分たちの発表に満足したり、互いの演奏を聴き合ったりすることで、音楽への関心・意欲を高める貴重な場となった。
- 音楽大会運営に当たっては、選曲が重なる学校もあったので、内容や運営等見直しを図りながら、よりよい発表の場となるよう計画を行っていく。

各地区における研究報告（県音研集録）

1 地区名

地 区	南那珂地区
会 長	串間市立大東小学校 大田原 千佳
理事長	日南市立油津中学校 川越 直美
文 責	日南市立油津中学校 川越 直美

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
令和 6 年 5 月 8 日（水）	○令和 5 年度事業・決算報告 ○令和 6 年度役員選出 ○令和 6 年度事業計画、予算審議等	日南市立学びの杜 北郷小中学校	32 名
令和 6 年 11 月 8 日（金）	第 52 回串間市小・中学校音楽大会	串間市文化会館	小学校 9 校 中学校 1 校 449 名
令和 6 年 11 月 13 日（水）	第 16 回日南市小・中学校音楽大会	南郷ハートフル センター	小学校 13 校 中学校 9 校 770 名
令和 6 年 12 月 10 日（火）	○実技講習会 講師：今井 全 様（教育芸術社） 内容：WEB 版アプリ「カトカトーン」を活用した音楽指導について	串間市立 大東小学校	24 名
令和 7 年 2 月末	○令和 6 年度事業・決算報告及び活動反省	C4th での報告	

3 成果と課題

- 実技講習会では、教育芸術社 WEB 版アプリ「カトカトーン」を使い、操作方法や様々な活用法を学ぶことができた。今後の創作活動等に大いに役立つ講習会となった。
- 本年度の日南市の音楽大会は、例年よりも参加校が増え、内容、演奏ともに充実した大変有意義な音楽会となった。一方、運営に関わる様々な費用が高騰し、資金面で運営が厳しいことが大きな課題となっている。今後は運営費を含めた大会運営のあり方を検討するとともに、本市の音楽教育がさらに充実・発展するよう学校同士の協力体制を構築していきたい。
- 本年度の串間市の音楽会は、各学校の演奏レベルの向上と市制 70 周年を記念した全員合唱などにより、質の高い音楽会となった。今後は児童生徒の鑑賞者としての意識向上の指導継続と限られた人員の中でのより円滑な運営体制の構築を要する。次年度以降も本市の音楽教育の充実・発展のため、本音楽会の継続と充実を図りたい。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	北諸県 地区
会 長	都城市立 石山小学校 校長 碓山 浩一郎
理事長	都城市立 姫城中学校 教諭 日高 紫保
文 責	三股町立 三股西小学校 教諭 小野田 武晃

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
R6 5/9	第1回音楽主任会 ・役員決め ・役割分担 ・今年度の取組	高城生涯学習 センター	約 60 名
R6 7/1	第1回音楽部会理事会 ・県音研報告 ・部会協議 ・音楽大会計画	都城市立 石山小学校	約 30 名
R6 8/20	研究部部会 ・授業研究会の計画 ・指導案検討	三股町立 三股小学校	7 名
R6 8/21	第2回音楽主任会 ・音楽大会計画 ・役割分担	祝吉地区 公民館	約 30 名
R6 10/29	都北小中学校音楽大会（中学校の部）	都城市総合文 化ホール MJ	参加校 20 校
R6 11/19	都北小中学校音楽大会（小学校の部）	都城市総合文 化ホール MJ	参加校 13 校
R6 12/5	授業研究会・実技研修会 授業者 三股小学校 教諭 末永 友美	三股町立 三股小学校	約 50 名
R7 2/25	第2回音楽部会理事会 ・今年度反省・来年度への確認	都城市立 石山小学校	約 30 名

3 成果と課題

- 都北小中学校音楽大会については、中学校の部、小学校の部ともに、児童生徒の貴重な表現の場となり、充実した内容となった。
- 三股小学校末永教諭による「音楽づくり」の研究授業を実施した。児童の思いや意図をいかに表出させ、音楽を構成していくかをテーマに、音楽づくり Web アプリ「カトカトーン」を活用して、多くの学びを得る授業となった。
- 授業研究会の後には、教育芸術社の講師を招聘し、「カトカトーン」の具体的な活用方法等についての実地研修を実施した。
- 音楽大会については、参加の在り方（鑑賞のみの学校等）を検討し、大がかりな発表をするという捉えではなく、これまでの学習の成果をもとに、表現する喜びを味わえる場としてとらえ、さらなる参加を促していく。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	西諸県地区
会 長	えびの市立 飯野小学校 多良眞知子
理事長	小林市 立 細野中学校 櫻井 和子
文 責	小林市 立 細野中学校 櫻井 和子

2 事業内容

() 児童生徒数

期 日	内 容	会 場	参加人数
5/30	理事会 総会の準備・R6 事業計画の検討	細野中学校	7
7/1	音楽主任会総会 研修会 役員改選 事業計画 情報交換	小林中学校	19
7/25	理事会 音楽大会計画	細野中学校	7
10/3	理事会 音楽大会計画・準備	細野中学校	7
11/7 11/8	音楽主任会 音楽大会前日準備 第 77 回小中学校音楽大会 音楽大会運営	小林市 文化会館	31 29 (1125)
12/12	授業研究会 小学 5 年生【音楽づくり】 ずれの音楽を楽しもう「クラッピングミュージック」 指導者 今藤 誠一	南小学校	19
2/14	理事会 R6 事業反省 R7 事業計画	細野中学校	7

3 成果と課題

【音楽大会】

- 各校から運営に協力いただき、ほぼタイムテーブル通りに進めることができた。
- 毎年各担当からの反省を改善し、よりスムーズな運営ができている。
- 横断幕を購入し、ステージが華やかになった。
- 市バスの運行が難航しており、大会の運営を大きく左右している。校長会と連携し、R8 実施に向けて検討を始めた。

【授業研究会】

- 授業・事後研ともに充実した内容で、大変貴重な学びの場となった。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	西都 地区
会 長	西都市立 穂北小学校 校長 押川由美恵
理事長	西都市立 三納中学校 教諭 後藤三紗子
文 責	西都市立 三納小学校 教諭 三輪あいな

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
6月24日	令和6年度役員承認 事業計画 予算審議・承認	穂北小学校	13人
9月9日	令和6年度西都市音楽会について	穂北小学校	13人
11月6日	令和6年度西都市音楽会前日準備	西都市民会館	14人
11月7日	令和6年度西都市音楽会	西都市民会館	14人
11月19日	都於郡地区音楽主任交流会	都於郡小学校	3人
11月29日	令和6年度第44回宮崎県音楽教育研究 大会日向・東臼杵地区大会に参加	日向市立塩見小学校 日向市立富島中学校 日向市文化交流センター	10人
2月27日	今年度の反省 次年度音楽会・役員について	穂北小学校	14人

3 成果と課題

- 今年度は、県音研大会への参加を地区研修会に変えて実施した。小学校では授業を担当している音楽主任が少ないこともあり、授業研究会を実施することが難しい現状があるが、良い研修の機会となった。
- 中学校区ごとに可能であれば研修会をもつようお願いした。今年度は都於郡地区で実施となった。児童生徒の実態や音楽指導についての情報交換ができ有意義だった。
- コロナ後2回目の音楽大会の実施となった。今年度は来場者が多数となり、多くの観客の前で日ごろの学習の成果を発表でき、児童生徒の励みとなった。一方、会場整理や駐車場等、課題が残ったため、次年度の開催に向けて改善していきたい。
- 令和8年度に市内の中学校5校が1校に再編され、市内の中学校は2校となる。それにともない、スムーズで有意義な音楽大会の運営について、検討していく必要がある

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	児湯地区
会 長	川南町立通山小学校 恒松 秀明
理事長	高鍋町立高鍋東中学校 中津 卓郎
文 責	高鍋町立高鍋東中学校 中津 卓郎

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加校・人数
R6.6.20	令和6年度宮崎県音楽教育研究会 役員総会	オンライン	1名
R6.7.4	令和6年度第1回児湯音楽教育研究会総会 ①R5年度事業報告 ②R6年度宮崎県音楽教育研究会役員総会報告 ③R6年度役員選出 ④R6年度事業計画・研究テーマ・研修会・音楽大会	通山小学校 相談室	23名
R6.7.13 R6.7.13 R6.7.15	第69回宮崎県吹奏楽コンクール 第42回宮崎県小学生バンドフェスティバル	宮崎市民文化ホール	高鍋東中 高鍋西中 富田中 唐瀬原中 国光原中 都農中
R6.8.6	第91回 NHK 全国学校音楽コンクール 宮崎県コンクール	宮崎市民文化ホール	高鍋東中学校 新田学園中学部
R6.11. 7	高鍋町・木城町小中学校音楽大会	たかしんホール	木城・高鍋町小中学校
R6.10.31	レインボーフェスティバル	サン A ホール	川南町小中学校
R6.11. 7	新富町音楽大会	新富町文化会館	新富町小中学校
R6.11.29	令和6年度第44回宮崎県音楽教育研究大会日向・東臼杵地区大会	塩見小・富島中	全会員
R6.1.24	児湯教育研究会音楽部会 指導者研修会 内容:合唱指導の在り方について 講師:宮崎市立宮崎東小学校指導教諭:黒木順子先生	高鍋東中学校	全会員
R6.12.21	第 50 回宮崎県アンサンブルコンテスト	新富町文化会館	都農中:管楽六重奏 富田中:金管三重奏 都農中:管楽四重奏
R7.2.1・2	第3回宮崎県吹奏楽コンクール Winter Cup	小林市文化会館	高鍋東中 都農中
R.7.27	令和6年度第2回児湯音楽教育研究会総会 ①R6年度事業・決算報告 ②R7年度の活動について	通山小学校	全会員

3 成果と課題

【成 果】

○児湯音楽大会については、コロナ感染対策により、5年度までは各地区で行うことと取決めており、6年度は再検討ということでもとに戻すか否かを総会にて確認をしたところ、地区ごとで行っていくこととした。実施地区は、富田地区、高鍋・木城地区と川南地区は音楽大会を小中合同で実施。都農地区は実施しなかった。

○指導者講習会については、黒木順子指導教諭に依頼し、合唱指導のあり方についてご教授頂いた。実りある講習会であった。早速、各学校の生徒達に還元できそうな内容であった。

【課 題】

音楽大会が合同で実施できなかったことで、都農地区のみが実施できなかったことが残念である。合同・単独実施にも一長一短あり、今後の大きな課題だと考える。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	日向・東臼杵地区	
会 長	日向市立坪谷小学校	濱砂達洋
理事長	日向市立日向中学校	工藤まゆみ
文 責	日向市立富高小学校	宮下優香

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
5/16 (木)	日向・東臼杵地区音楽教育研究会（役員会）	富島中学校	8
5/22 (水)	日向・東臼杵地区音楽教育研究会（主任会）	富島中学校	16
6/17 (月)	指導案検討会（中学校・鑑賞）	富島中学校	7
6/26 (水)	指導案検討会（中学校・鑑賞）	富島中学校	7
6/28 (金)	授業研究会（授業者：谷川佳子先生）	日知屋東小学校	10
7/3 (水)	授業研究会（授業者：碓山奏先生）	平岩小中学校	4
8/6 (火)	指導案検討会（小学校・音楽づくり）	塩見小学校	10
8/19 (月)	「カリキュラムマネジメントと音楽授業の改善・充実」 志民一成 視学官	佐土原総合文化センター	15
9/11 (水)	授業研究会（授業者：山之内令子先生）	東郷学園	3
9/18 (水)	授業研究会（授業者：工藤まゆみ先生） 第2回実行委員会	塩見小学校	33
9/27 (金)	授業参観・研究会（授業者：黒木満梨奈先生） ひまわりフェスティバルについて	美々津小学校 日向中学校	6
10/15 (火)	授業研究会（授業者：税田由美先生）	財光寺中学校	4
10/22 (火)	第3回実行委員会	日向中学校	33
10/23 (水)	授業研究会（授業者：神戸舞子先生）	椎葉中学校	4
10/25 (金)	授業研究会（授業者：梅澤祐子先生）	門川中学校	6
11/6 (水)	ひまわりフェスティバル前日準備	文化交流センター	16
11/7 (木)	ひまわりフェスティバル当日の運営	文化交流センター	16
11/12 (火)	授業研究会（授業者：右松愛梨先生）	富島中学校	8
11/28 (木)	研究大会前日準備	塩見小・富島中	30
11/29 (金)	研究大会当日 授業者：寺原由紀先生 右松愛梨先生	塩見小・富島中 文化交流センター	33

3 成果と課題

- 今年は研究大会が日向・東臼杵地区で行われ、大会に向けてたくさんの授業研究会や指導案検討を実施し、研究を進めることができた。
- 大会を実施するにあたり、県音研の役員の先生方にたくさんのご指導やサポートをしていただき、大変ありがたかった。
- 今年度の研修内容を確実に引継ぎ、音楽の授業づくりや音楽教育の在り方についてさらに研究を進めていきたい。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	延岡 地区
会 長	延岡市 立 延岡中学校 石井 豊久 岡富小学校 黒木 将人
理事長	延岡市 立 北川小学校 松羽 裕之
文 責	延岡市 立 北方学園中学校 永野 結実

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
5月7日	研究テーマ決定 年間計画（案） 延岡市小・中音楽祭について	延岡市立 延岡中学校	29名
7月23日	箏に親しもう ○ 「さくら」の実技指導 ・ 琴柱の立て方 ・ 平調子について ・ さくら四種の演奏 ・ 琴の片づけ方	野口遼記念館 フリースペース A	24名
9月19日	岡崎 桃先生研究授業 授業研究会 延岡市小中音楽祭について	延岡市立 南中学校	27名
10月25日	小中音楽祭に向けての最終打ち合わせ 当日の動き	延岡市総合文 化センター	27名
11月14日	小中音楽祭（小中学生が合唱や合奏を披露）	延岡市総合文 化センター	25名
1月17日	音楽祭の反省 ICT 活用の実践紹介	延岡市立 延岡中学校	26名

3 成果と課題

- 実技・研究発表・ICT 活用の実践発表など様々な研修を行い、授業力向上につながった。
- 小中音楽祭では、昨年度の反省を生かし、プログラム順を小中学生が混ざるようにし、小学生が同地区の中学生の合唱を聴けるように工夫したことで、小中ともにお互いの良さに気づくことができた。

各地区における研究報告

1 地区名

地 区	西臼杵 地区		
会 長	五ヶ瀬町 立	上組小 学校	大島 昭二
理事長	高千穂町 立	高千穂小 学校	吉永 君代
文 責	五ヶ瀬町 立	五ヶ瀬中 学校	橋口 夏美

2 事業内容

期 日	内 容	会 場	参加人数
6	県音楽教育研究会 役員総会	オンライン	2 人
8	郡音楽教育研究会第1回役員会	上組小学校	4 人
10	学校と地域をつなぐ音楽祭	日之影中学校	4 校
10	五ヶ瀬町教育文化祭	五ヶ瀬中等 教育学校	6 校
11	高千穂町教育文化祭 「子ども音楽フェスティバル」	テレビ高千穂 で放映	7 校
11	授業研究会・実技講習会	高千穂小学校	18 人

3 成果と課題

- 授業研究会・実技講習会では歌唱指導について、講師の先生に小学校で授業していただいた。声の出し方について、分かりやすい例えを用いながら指導されていた。また、楽しい音楽の授業をつくるための工夫も話していただき、今後の授業に生かせる内容であった。
- 今年度のように、講師の先生にお越しいただき、実際の授業の様子を見て学べる機会を今後も設けていきたいと感じた。今年度は歌唱分野だったが、来年度以降も教師の困り感をもとに研究領域を設定していきたい。西臼杵郡は環境的には困難な状況ではあるが、各校連携しながら授業研修や意見交流を行っていく必要がある。

第〇学年学習指導案

〇〇立〇〇小学校

教 諭 ●● ●●

1 題材名
教材名 「 」 〇〇作詞 〇〇作曲

2 題材の目標
(1)
(2)
(3)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

A 表現 (1) 歌唱

ア
イ
(ア)
ウ
(ア)

【共通事項】(1)

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「 」、 「 」 . . .

4 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知		思	態
			
技			
			

5 題材観

6 教材観

7 児童観

8 指導と評価の計画 (○時間)

時	■ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		<評価方法>		
1	■ ○ .			
2 (本時)	■ ○ . ○ .	知 〈ワークシート1〉	思 〈観察〉	
3	■ ○ . . .	技 〈ワークシート2〉 〈演奏〉		12 態 〈ワークシート〉

9 本時の学習

(1) 目標

(2) 学習指導過程

学習内容 ○学習活動	めあて	○指導上の留意点	◆評価規準<評価方法>
1 ○		○	
2 本時のめあてを確認する ○ 本時のめあてを理解する。		○	
3 ○			◆<観察・ワークシート>

(3) 板書計画

第〇学年学習指導案

〇〇立〇〇中学校

教 諭 ●● ●●

1 題材名
教材名 「 」 〇〇作詞 〇〇作曲

2 題材の目標
(1)
(2)
(3)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

A 表現 (1) 歌唱

ア
イ
(ア)
ウ
(ア)

【共通事項】(1)

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「 」、 「 」

4 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知		思	態
			
技			
			

5 題材観

6 教材観

7 生徒観

8 指導と評価の計画 (○時間)

時	■ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		<評価方法>		
1	■ ○ .			
2 (本時)	■ ○ ○ .	知 〈ワークシート1〉	思 〈観察〉	
3	■ ○ . . .	技 〈ワークシート2〉 〈演奏〉		態 12 〈観察〉 〈ワークシート〉

9 本時の学習

(1) 目標

(2) 学習指導過程

学習内容 ○学習活動	めあて	○指導上の留意点	◆評価規準<評価方法>
1 ○		○	
2 本時のめあてを確認する ○ 本時のめあてを理解する。		○	
.			
3 ○			
		◆	
			<観察・ワークシート>

(3) 板書計画

令和6年度 宮崎県音楽教育研究会本部役員

役職名	職名	氏 名	勤務校	勤務先電話
会 長	校長	鎌田 剛史	宮崎市立生目中学校	0985-48-1101
副会長	校長	田原 理恵	宮崎市立宮崎西小学校	0985-47-0403
理事長	講師	金本 志秀	宮崎市立大淀中学校	0985-51-3700
副理事長	指導教諭	長沼 康孝	宮崎市立赤江小学校	0985-51-4366
事務局長	指導教諭	兼重 博美	宮崎市立江南小学校	0985-53-5005
幹 事	指導教諭	黒木 順子	宮崎市立宮崎東小学校	0985-22-7471
	教諭	川島 美哉	日南市立吾田小学校	0987-23-1129
	教諭	鳥原 菜穂子	国富町立木脇小学校	0985-75-2556
	教諭	森永 仁美	宮崎市立西池小学校	0985-24-2611
	教諭	田中 恵子	高鍋町立高鍋東小学校	0983-23-0035
	教諭	鈴木 美佐	日向市立大王谷小学校	0982-52-7125
	教諭	楠田 一枝	宮崎市立住吉中学校	0985-39-1512
	指導教諭	宮永 典子	小林市立小林中学校	0984-23-4168
	教諭	重永 智子	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000
	教諭	深江 信子	宮崎市立青島中学校	0985-65-1248
	教諭	吉元 成美	宮崎市立久峰中学校	0985-73-1188
	教諭	赤塚 由姫	都城市立沖水中学校	0986-38-1335
	教諭	工藤まゆみ	日向市立日向中学校	0982-52-4794
顧 問	参事兼生涯学習課課長	猪野 貴一	宮崎県教育委員会生涯学習課	0985-26-7244
参 与	教授	菅 裕	宮崎大学	0985-58-2889
常任理事	宮崎市、東諸県、南那珂・都北・西諸県・西都市・東児湯、日向市、延岡市、西臼杵地区の会長及び理事			
監 事	教頭	須見 かおる	宮崎市立生目中学校	0985-48-1101
	教頭	森 誠四郎	宮崎市立宮崎西小学校	0985-47-0403

宮崎県音楽教育研究会会則

第 1 条 本会は「宮崎県音楽教育研究会」と称する。

第 2 条 本会は県下の小・中学校教職員をもって組織する。

第 3 条 本会は各地区に地区研究会を置く。

第 4 条 本会の事務局は会長が委嘱した学校に置く。

第 5 条 本会は宮崎県音楽教育を振興することを目的とする。

第 6 条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 音楽教育に関する研究及び調査
- (2) 音楽教育に関する研究会・講習会・鑑賞会等の開催
- (3) その他本会の目的達成に必要な事業

第 7 条 本会の最高議決は総会とする。

第 8 条 本会に次の役員をおく。

会長 1 名 副会長 2 名 理事長 1 名 副理事長 1 名 事務局長 1 名
幹事 若干名 顧問 若干名 参与 若干名 地区会長 地区 1 名
理事 地区理事 1 名 常任理事 若干名 監事 若干名

第 9 条 役員を次の方法によって選出する。

- (1) 会長は宮崎市の会長をもってあてる。副会長は宮崎市の副会長及び県音研大会開催地区の会長をもってあてる。
- (2) 地区会長は地区の小中学校長をもってあてる。
- (3) 理事長・副理事長は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
- (4) 理事は各地区の理事長をもってあてる。
- (5) 常任理事は宮崎市、西都市、南那珂、都北、延岡地区の会長及び理事長をもってあてる。
- (6) 事務局長は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
- (7) 幹事は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
- (8) 監事は会長が委嘱する。
- (9) 顧問・参与は会長が推薦し総会で承認を得る。

第 10 条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会 長 . . . 本会を代表し会務全般を統括する。
- (2) 副 会 長 . . . 会長を補佐し会長に事故あるときはこれを代行する。
- (3) 地区会長 . . . 各地区を代表し各地区の会務全般を統括する。
- (4) 理 事 長 . . . 理事を代表し本会全般の運営にあたり各地区との連携を図る。
- (5) 副理事長 . . . 理事長を補佐し理事長に事故あるときはこれを代行する。本会の庶務その他の事務遂行にあたる。
- (6) 理 事 . . . 各種本会業務の各地区での推進を図るとともに各地区業務の企画運営にあたる。

- (7) 常任理事・・・本会の緊急事項を審議し処理する。
- (8) 事務局長・・・会の庶務・会計の事務遂行にあたる。
- (9) 幹事・・・役員総会・理事会・常任理事会で決定した事項を処理する。
- (10) 監事・・・本会の会計を監査する。
- (11) 顧問・・・会長の諮問に応じ音楽教育振興のために意見を述べる。
- (12) 参与・・・音楽教育を側面的に援助し、また本会の運営に協力する。

第11条 役員の任期は1年とし再委任をも妨げない。

第12条 本会は次の役員会を持ち会長がこれを招集する。

- (1) 役員総会（地区会長・地区理事長）
- (2) 常任理事会（宮崎市、西都市、南那珂、都北、延岡地区の会長及び理事長）
- (3) 本部役員会（会長・副会長・理事長・副理事長・事務局長・幹事）

第13条 本会の運営資金は補助金・会費・事業収益・及び協賛金をもってこれにあたる。

第14条 本会則の改訂変更は役員総会の決議によるものとする。

第15条 本会に必要な細則は常任理事会において定めることができる。

第16条 本会は昭和41年4月1日より効力を発する。

附 則

第1条 各地区にはそれぞれ役員をおく。人員及び選出方法は各地区により決定する。

会長・副会長・理事長・副理事長

第2条 本会は九州音楽教育研究会、全日本音楽教育研究会と連携する。

第3条 この会則は改正の日から効力を発する。

- (1) この会則は平成12年5月29日から効力を発する。
- (2) この会則は平成30年5月25日から効力を発する。（第9条(3)を改正）

改 正 第2条の語句削除、第9条(4)の語句削除、(1)、(2)、(3)、(5)、(6)、(7)、(8)、
(9)の改正規定、

第10条の(3)、(4)、(5)、(6)、(8)、(11)の改正規定、第12条の改正規定、第12
条の語句訂正、第15条の改正規定、附則第3条(1)、第9条(3)改正規定

内 規

1 役員選出について

役員総会に於ける役員の選出を円滑にするために事前に役員選考委員会を設けることができる。

2 役員選考委員会の構成

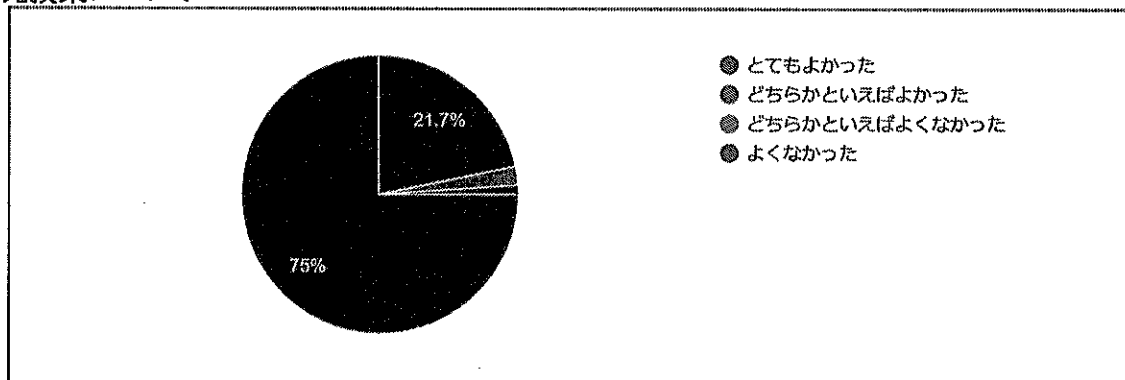
旧年度の会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長、幹事より1名の6名で構成する。ただし、次年度県大会を宮崎地区以外で開催する年度は、開催地区会長及び理事長を加えた8名で構成する。

第44回宮崎県音楽教育研究大会 日向・東臼杵地区大会報告

- ・ 第44回宮崎県音楽教育研究大会
日向・東臼杵地区大会アンケート結果
- ・ 小学校 表現（音楽づくり）第4学年
- ・ 中学校 鑑賞 第1学年

第44回宮崎県音楽教育研究大会日向・東臼杵地区大会 アンケート結果について

1 研究授業について



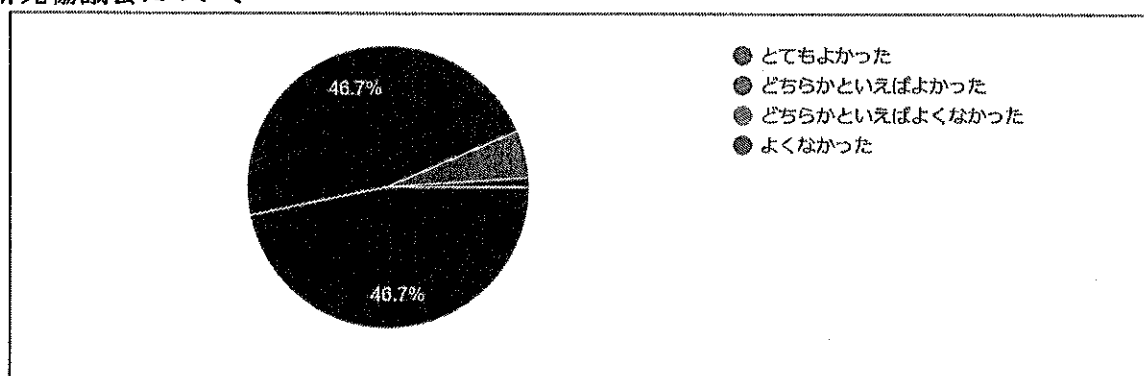
<小学校>

- あたたかい声かけがよかった。地域性もあり、祭りの音楽に親しみをもっている児童の、表現したい音楽に導いている様子がよかった。
- グループ活動では、リズム譜をうまく使わせていたので、児童の主体的な活動ができていた。

<中学校>

- きめ細やかに、見通しを持って、生徒がどう活動して良いかわかりやすい手立てがたくさんあったことと、先生自身の教材に対するしっかりとした考えがあつての指導がされていて、大変勉強になりました。
- 特に導入の流れがとても参考になりました。対話を取り入れて、生徒たちに解決をさせるときにどういう課題設定をし、生徒が導いた結論についてどのようにアプローチするかは、生徒の実態に合わせて見通しをもって取り入れる必要があると思いました。ある意味で勇気をもって生徒に委ねることで見えてくるものもあると、勉強になりました。ありがとうございました。

2 研究協議会について



<小学校>

- 先生方の様々な気付きに共感しながら、また自分では思い付かなかった点に感服しながら、参加させて頂きました。
- 主体的な学びについてのヒントをたくさんいただいたので、日々の授業にも生かしていきたい。
- 児童の表現において先生が一つ一つ丁寧にコメントを返したり発問を返したりして児童の思考が深まっていることから自分もそういう返しをしていきたいと思った。
- なかなか意見が出ず司会の先生が一生懸命つないでくれた感じになった。もっと気軽に実践を出し合え

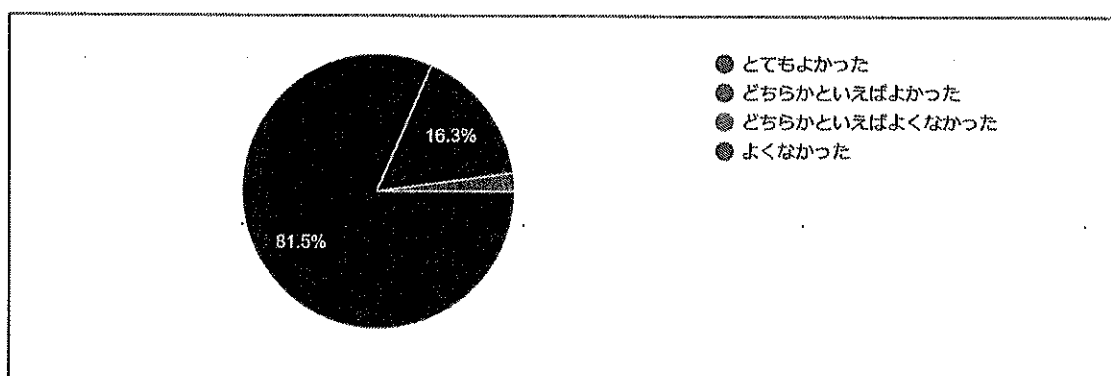
るとよかった。

- 協議題の柱の設定はよいが、なかなか話に入りにくいものだったので、今日の授業の工夫からという取っ掛けだとよかったかもしれないと思いました。
- 専科でなくても気軽にできる授業など実践的な内容も聞きたかった。

<中学校>

- 今後の音楽活動の参考になる気づきがあった。
- 私たちがやっていかなければならないことや、考え方を再確認する機会になりました。
- 他の先生方の普段の指導法などが聞けて参考になりました。
- 全体会だとなかなか意見も言いづらいのでグループで協議しあい代表が発表し合う形が良いのかなと思いました。
- 普段の授業の悩みや指導力向上のための手立て等をもっと交流できると嬉しかったです。

3 ワークショップについて



<小学校>

- 専門的なことも含めた面白い内容で分かりやすく、楽しみながら学べた。次回も三宅先生のワークショップを受けたいと思うくらい良かった。
- 共通教材をこのように深掘りしたアナリゼをしたことがありませんでした。こんなに面白い作りになっていたと新しい発見に驚いています！分析しながら取り組ませることで楽譜を読むことのできる子どもたちを育てることにつながるのだらうな…とワクワクしました。
- 共通教材の分析がわかりやすく、児童と対面しながらを想定して、すぐに生かせそうだと感じた。実感が起点となるということの大切さがよくわかるものでした。大変良かったです。
- 曲や歌詞、楽曲の解析のような…大人の方々、音楽をしている方々からすると簡単なことだろうが、もっと子ども向けに指導できるような言葉かけや方法などをワークショップの中に取り入れてもらえると実践しやすいなと思いました。

<中学校>

- あっという間に時間が経ってしまいました。それほど、取り組みやすく、楽しいワークショップでした。今後に活かしていきたいと思います。
- 楽器がなくても子どもと楽しむ方法を沢山教えていただいたので、早速授業で実践しようと思いました。
- 「初めて」をたくさん経験できて良かった。ワークショップに参加しなければ、自分がこの感覚を得ることはなかったかもしれないと思う。また、失敗やルール外について、目が合うことの意味や対応など、根底となる考え方を伺うことができて、大変意義深かった。

分科会・学年	題 材	授業者
小学校 表現 (音楽づくり) 第4学年	おはなしのリズムを楽しもう 教材「おはやしづくりにチャレンジ」	日向市立塩見小学校 教諭 寺原 由紀
	協議題「一人一人が自分の思いや意図をもって生き生きと音楽活動に取り組もうとする授業改善はどうあればよいか」	
	司会者	記録者 指導助言者
	西都市立妻南小学校 指導教諭 徳原 奈奈	宮崎市立宮崎小学校 教諭 鈴木 昭子 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 菅 裕

1、授業者の反省

- 「おはやしづくりにチャレンジ」をグループで思いを1つにし、思いを表そうという学習を15名の子どもたちが「ひなたのまなび」を意識して話し合い活動を行った。
本時の授業では児童同士、意見が合わないこともあったが一つの気持ちで1グループ5名が頑張っていた。
- 技能面ではなかなかだったかもしれないが、どの子どもも自分の思いを音楽で表そうとしていた。

2、質疑・応答（●授業者）

- （延岡市立一ヶ岡小：矢野）グループの分け方について教えてほしい。
- 今回の授業は、鑑賞と一緒にいる単元でどんなおはやしが好きか、好みを聞いて「○○なおはやしをつくりたい」という自分たちが作りたいおはやしが同じだという児童同士でグループ分けした。
- （一ヶ岡小：矢野）前時の授業で大太鼓を担当する児童の役割はどうされたのか。
- 重ね方について考えさせた。拍を取るためにグループのリズム楽譜を指で示させたり、補助的な役割をしてもらったりした。大太鼓を担当する児童は前時では大太鼓をしたくてたまらなかった様子だったが我慢して本日に臨んだ。
- （延岡市立土々呂小：押川）太鼓の叩き方、鈴の叩き方の指導はどうされたか。
- 楽器の演奏については地域でのかかわりが多く十五夜太鼓や、放課後子ども教室で指導してもらっている。児童同士の教え合いでも学んでいた。教師が特に指導したことはなかった。
- （土々呂小：押川）グループ活動での視点について。
- 強弱などには視点は与えず、反復を中心に行っていた。
技能面を重視した授業ではなく、子どもたちの思いを大切に。拍が合うということには重きをおいていなかったが目を見て合わせたらいよいよとは助言した。7月に音楽づくりをしたときには上行下行などについては助言した。
- （東京大学芸術創造連携研究機構客員フォロー：坪能 由紀子氏）
創造性クリエイティビティに焦点をあてる。子どもたちは音楽づくりが苦手ということはない。
手拍子を順番にしていく手拍手回しや拍手のまねっこなど小学校の授業の中で毎回1分でも3分でも音楽づくりをやっていくといい。子どもの音をよく聞いて出てきたアイデアを次に生かす。一番大切なことは子どもの工夫の音を聞きとることだと思う。

3、研究協議

○（宮崎市立住吉南小：松浦）

児童が主体的に取り組むための手順やルールが周知されていて、児童が何をすればよいのかははっきりわかるための手立てが良かった。そのことにより児童は集中して取り組むことができていた。リズム譜がマグネットで準備されていたので子どもたちが主体的に活動できていた。

○（日向市立大王谷学園初等部：鈴木）

ICTなどの教育機器を使うことも検討したが児童がリズム譜やリズムカードなどの物を使いながらリズムを児童同士の話し合い活動の中でつくることができるとしてそのようにした。リズムカードも色を変えてユニバーサル的にも意識して準備した。

ICTを使用する目的を考えて使わないといけないと思う。ICTを使用することで言葉や音が聞こえなくなる。言葉を交わすこと意見を交わすこと、子どもたちの声でのやり取りが大切だと思う。

○（宮崎市立大淀小：多賀谷）

教材の工夫、教材がとても見やすかった。授業の進め方①②③がとてもわかりやすかった。子どもたちがどのように活動していけばよいのかわかる教師の言葉かけがよかった。

○（都城市立五十市小：梶原）

物語を作らせて音楽づくりをさせている。イメージがしやすく、そうすることによって音楽づくりを主体的・協働的に行うことができると思う。

○（日向市立大王谷学園初等部：鈴木）

最後の発表のときに少しリズムがずれたグループの児童の感想に対して「あー、ずれるっていいね」と教師が言った一言。次の時間に教師の言葉をいかしていこうと意欲的になれる。教師の一言で子どものやる気がでる。認めてもらったと思う。次、頑張ろうと思える教師のひとことだったと思う。

4、まとめ（指導助言者名：宮崎大学大学院教育学研究科 菅 裕 教授）

子どもたちの一生懸命の姿が見られた。とかく「正しい演奏」「正しい聴き方」を求めてしまうが、自分たちなりの新しい「正しさ」を発見していくことが重要。未来に目を向ける視点で過去とつなげる。「何でもあり」ではない。私たちが過去に大切にしてきたことを、未来につくる視点で捉え直す。音楽はもともと協働性を含んでいる。

真っ先に思ったのは、子どもの演奏が素晴らしいということだった。教師の指導、口唱歌（くちしようが）、ワークシート、手順の示し方が良かった。つくっているときの子どもたちの様子が良かった。それぞれの子どもが思いを持っていた。発表後の総合評価も良かった。音楽がどうなっていたかもしっかり聞いていた。また、児童の重要な気づきを教師が即座に取り上げて褒める場面も見られて子どもがいきいきと活動していた。

音楽はもともと協働的な活動である。自分がつくりたいものだけでなく、聞いている人を意識してつくることが大切。子どもたちがとても良い学びをしていた。集団、グループ学習の中で他の人がどう聞いてくれているか、という視点が大切になる。発表の時に「つくっていく中で今日はこういう視点でやってみたらうまくいきました」というようにプロセスについても発表していくととても良いのではないと思う。

寺原先生、貴重な授業の提案をありがとうございました。日向・東臼杵地区の先生方、本当にありがとうございました。

分科会・学年	題 材	授業者
中学校 鑑賞 第1学年	曲想と音楽の構造との関わりを理解しながら、音楽のよさや美しさを味わおう。 「魔王」	日向市立富島中学校 教諭 右松 愛梨
	協議題 「一人一人が自分の思いや意図をもって生き生きと音楽活動に取り組もうとする授業改善はどうあればよいか」	
	司会者	記録者
	宮崎市立宮崎中学校 教諭 櫻井 和也	宮崎市立本郷中学校 教諭 鳥居 美知
		指導助言者 諸塚村立諸塚中学校 校長 土谷 敬子

1. 授業者の反省

- 子どもに近い感覚で言葉かけができるよう授業環境づくりを心がけている。
- ゴールイメージを明確にすること、視覚化にすることを意識した。自分たちの姿を教師側が先に言ってあげることで子どもは安心する。視覚化ではオレンジ（感受）や緑（知覚）の色分け、スライドで授業の流れや班活動の役割などを提示し、支援の必要な生徒にも分かるようにした。
- 本時のまとめ「登場人物の音楽の特徴をとらえて文章に表現すること」に重きを置きたかったが、時間配分ができなかった。意見集約の場面では、確認する場面が多く生徒とのやり取りに時間がかかってしまった。
- リズムと速度を混同している生徒へはこれからも訂正し、正していきたい。
- 音楽機器がある中で、どこまでデジタルの活用をすべきか考えるところである。最後にタブレットを使用しなかったのは、立ち上げなどに時間がかかるためであった。

2. 質疑・応答（●授業者）

- （生目中：米良）1時間目の曲との出会い、音源と役割の確認について
- 1時間目の流れは、まず魔王を聴かせ、感じたこと、気づいたことを書かせた。その中で演奏形態につながるピアノや男性の声、強弱の差が激しい、途中で調が変わるなどの意見が出てきた。次にシューベルトについて説明し、県版のノートで物語を確認した後、本時の父、子、魔王の声の特徴を見つけ、表でまとめることにつなげていった。
- （加久藤中：橋爪）デジタル音源の使用について
- 本時で使用したスピーカー、ミキサーはBluetooth対応である。普段は教科書のCDをデータに落として転送し、Bluetoothで流している。再生は速いが落とす作業に手間がかかるので全ての単元では行っていない。使用した音源は令和3年版ではなく、魔王の最後の言葉や子どもの音程が上がっていくところが伝わりにくいと考える、平成版を使用した。
- （都農中：桑引）
指導上の留意点「会話の主をタブレットで提示しながら音楽を流す」部分が口頭に変更になった理由
- 子どもたちの顔があがってしまい、注意力が無くなり集中力に欠けるため。
最終的な確認の中ではなく、先に楽譜を提示した意図
- リズムの所を速度について言っていた。子どもから、リズムを考えるのが難しいという意見が出たので、楽譜を見せた。音符を指でたどらせることで音の高さを一緒に確認することもできるので切りかえた。

3. 研究協議

- （西米良中：岩元）
全体共有の場面で、先生の発問に対して子どもたちが前向きに一生懸命に応えており、とても雰囲気よかった。「物語と関わらせてね」の言葉かけから、感じたことを知覚に変換し、どのように関わっていくのかが一本につながり音楽的な核心に迫っていった。先生の発問の持っていく方や事前準備がすごいと感じた。
- （広瀬中：甲斐）
視覚的、プレゼン等で示すことにより、今何をしたらよいか分かる授業であった。知覚と感受を線で結び、関わりを表すとよいのではないか。
- （高岡中：湯地）
子どもへの指示など視覚的で分かりやすかったが、段取りの説明が多くなり活動やさせたいことが出来ないことがある。授業を進めていく中で、その子なりの言葉が出てきた時に何とか意見を取り上げたいが、正しい表現になるようにすると時間が割かれる。また、グループ活動等では書くだけになってしまい、落としこむところまでいかない。そのような時間の使い方を教えてほしい。
- （日之影中：矢野）

説明、準備、導入部分の流れがスムーズでよかった。一度聞かせて要素を見つけさせるためには、判断基準をもっておかなければいけない。生徒を主体的にさせたいときに、自分が思ったことを自分の言葉で言った意見を拾ってあげたことは今後につながる。教師のねらいに近い答えを絞るためには、前段階の仕掛けや誘導的な発問が必要。

○（木脇中：後藤）

ジグソー学習に取り組んでいる。まず大まかな目標は自分で設定し、目標に近づくために、ホームというグループでどのような手段、手立てで取り組むかを考える。違うグループと意見交換しホームに戻るという学習形態である。自分たちで何かをするための手立てを考えさせるのは主体的な学習につながる。

○（加久藤：橋爪）

「子ども」の声を聴き取る時、短調だが長調に聞こえるのは音色が明るいからだと切り返しをされていた。切り返しの発問が難しいので、自分のねらいと別の視点だということをどのように説明すればよいか。

○（東郷中：山之内）

全体共有の場面で、生徒の意見をどのようにまとめていくのか、また確定の仕方が難しい。

○（大淀中：金本）

矢印を使ってやった時に物語と結びつけるところまでに至らなかったのが、題材に迫るため文章で表すことになった。音源は子どもたちが聴いて、特徴がしっかりと分かるものを準備しないと鑑賞の授業にはならない。知覚が学びになっていくので、全体で確認する時には正しい言葉で示さなければならない。その部分を班でやっていくと時間が足りなくなった。聞き取りではリズムや調で躓きがあるので、本時では早い段階で楽譜を見せ、指でなぞることにより、リズムの確認を行った。私たち一人一人が何のためにこの音楽を使っているのか、音楽の伝えたい魅力は何で、それを子どもたちが自分で確認するために、知覚の部分をアナリーゼとして教師側がもっておかないといけない。積みかさねていくことが探究的な学びや自分を振り返ることになる。

○（五ヶ瀬中等教育学校：渡邊）

見える化で自分が参加しているという実感がもてたのではないかな。音楽の授業は空気の振動を共有しながらやっていくものだと考えていたので、タブレットを使用し個人で聴かせることに抵抗があった。主体的・協働的に学習に取り組んでいく中で、音楽に対する理解や深まりをもたせるためには、やはり個人の考えをしっかりとともちグループ活動につなげると曲への理解や魅力、題材に迫ることができる。

○（東郷中：山之内）

時間配分の話が出たが、子どもたちのいろいろな意見、考えがでたからではないか。

4. まとめ（指導助言者名 校長 土谷 敬子）

本授業は、音楽的な特徴をとらえさせるため、子どもたちに丁寧に指導されていた。「魔王」は、シューベルトがすごく感激して短い時間で曲を書いたという逸話がある。私たちは指導者として、シューベルトがこの詩を表現するためにどのように曲を作ったのかを常に考えながら、どう指導していくべきかを考えなければならない。宮崎県はひなたの学びをどの学校でも進めている。一人一人が問いをもち、主体的に学ぶ姿、それが今日どれだけできたのか、そして仲間となって学びあえる対話的に学ぶ姿がすごく大事である。グループで考えるところで子供たちの思考が深まっていく。その場面に対して教師がどのような発問やアドバイスをするのか、詩と絡み合わせた音楽について最終的にもっていき、どのように自分は考えたのか、深いところがついていけるとよい。研究協議題の「生き生きと」が鍵である。分かる授業をしないと子どもがついてこない。ワークシートの記入の状態、誰がどのように意見を述べたか、子どもたちの表情、グループ活動の意見交換の観察などが大事である。まず導入で分かる授業をやっていくことが大切である。教師と子どもたちとの対話の重要性、教師からの発問は、ねらいに対しての窓口である。ねらいに達するまでの過程が子どもたちの音楽的な学び、発問が子どもたちへの思考の刺激になり、子どもたちが迷ったり確かめたりすることを通して、音楽的な学びが深まる。教材研究を通して子どもの状態に合わせる指導方法を考え、特に鑑賞では、まずは聴いて子どもが気持ちを表せることが大事である。視覚的に刺激を与え、書く、話す活動だけでなく、身体表現があってもよい。ICTの活用では個人の思考の中で有効的に使用し、教材に合わせた工夫をしてほしい。協働的な学びのなかで、ねらいの価値に向けていけるようなグループ編成、発問構成を考え、発問は教材研究をしっかりと行い、何をめざすのかを考えてあげることが一番大事である。歌詞は合唱指導にも関わっていくので、教師自身が曲に対しての感銘をしっかりと受け、子どもたちによさを伝えられるよう今後も指導をお願いしたい。